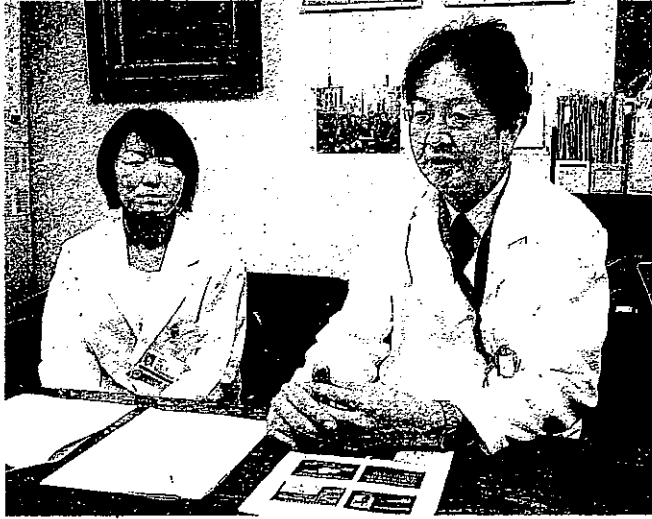


脳卒中後遺症に効果

筋肉の緊張和らげる薬剤「ボトックス」



脳卒中を発症し、一命は取り留めたものの、手足の筋肉がこわばる「痙縮」の障害が残る人は多い。厚生労働省は昨年10月、ボツリヌス菌の毒素を使って筋肉の緊張を和らげる薬剤「ボトックス」(英ラテン・スミスクリライン社製)について、

徳島大学病院神経内科
治験担当の医師に聞く

痙縮への適応拡大を承認した。既に、医療現場で使われ始めており、脳卒中の後遺症に悩む患者にとってはお報となりそう。治験を担当した徳島大学病院神経内科の梶龍児教授と宮城愛医師に、薬剤の効果について聞いた。

適応が承認された痙縮は、たいてい日常生活に支障を来す。手の指やひじ、足先の筋肉がこわばり、指が握ったまま、頭部外傷、脊髄損傷などが原因でこわばったまま、足先が伸びたままになる症状。手足が震えたり、速く歩けなくなったり、筋肉をまひさせ

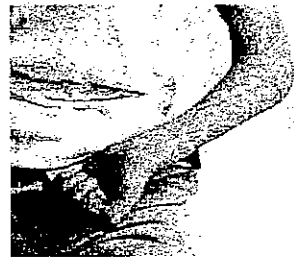
て緊張を少なくする効果があることを利用。毒素を致死量の千分の1程度にまで薄め、安全性を高めている。筋肉は、アセチルコリンという神経伝達物質が運動神経の末端から放出されて動くが、ボツリヌス毒素は、その放出に必要なタンパク質を壊すことで放出を抑え、筋肉の緊張を和らげる。

治験は2007年5月から08年7月にかけて、全国19病院の協力を得て実施した。被験者は、脳卒中を発症して5〜7年が過ぎてても痙縮が続いている20〜80歳で、重症度6段階(0〜5)のうち、上肢は中等度(2〜3)の109人、下肢は中等度から重症(3〜5)の120人が対象。

「脳卒中の後遺症をあまり悩まなくてほしい」と話す徳島大学病院神経内科の梶龍児教授と宮城愛医師(同大学)

副作用なく3ヵ月持続 患部へ注射

【上】脳卒中の後遺症で指が開かなくなった手
【下】ボトックスで治療後、指が伸びるようになる(梶龍児教授提供)



象。患部に1回注射して1ヵ月後の状態を調べた。その結果、重症度が平均で、上肢は1.05、下肢は0.88の改善がみられた。また注射後は、筋肉のこわばりが少なくなり、歩行速度が倍になったり指が動かせやすくなったなどの効果があった。

効果は通常、患部への1回の注射で3ヵ月持続するが、注射を繰り返すことで6ヵ月から1年間持続する人もいて、副作用もほとんどないという。

脳卒中患者は現在、全国で200万人を超える。治療法の発達で助かる人は増えたが、患者の65%以上は手足などに痙縮が残る、社会復帰ができない人は55万人に上る。また、要介護者の30%以上は脳血管障害が原因。国の介護費

(梶上泰雅)